

大学名： 京都外国語大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	地域をこえた支援として、2021 年度は広島県にある盛進中学高等学校の加盟申請支援を行い、チャレンジ期間終了「可」の判断を行った。なお、京都府内の学校からの新規加盟申請・相談は無かった。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	2021 年度は京都府内2校の支援を行った。 ①京都外大西高等学校 (1) 上賀茂神社の葵祭で使用される葵の栽培について学び、不足する葵の育成をどのように歴史として紡いでいくのか、どんな手法があるか学習した。 高校ホームページ (2) 第 31 回関西高校模擬国連大会（オンライン（一部対面））の支援を行った。 関西模擬国連大会ホームページ ②京都府立西乙訓高校 (1)SDGs をテーマとする探究学習の支援を行った。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	ESD に関連する専門分野の教員が、上記のユネスコスクールに対して授業を行ったり、フィールドワークを実施することができた。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	毎年支援してきた京都の加盟登録校 8 校で行っている上賀茂神社ワークショップは、2021 年度はコロナ禍のため中止となったが、来年度からは再開予定である。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	国内外の地域コミュニティとの協働・連携を通じて、共通する課題解決に取り組む本学のコミュニティエンゲージメント・プログラムの一つとして、京都外大西高等学校や奈良育英中学校・高等学校と連携し、高大連携教育プログラム「英語キャンプ (Camp Pax Mundi)」を開発、実施した。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	地域のステークホルダーに対するユネスコスクールの認知活動については、現在、模索中であり十分な活動とならなかった。

	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	SDGs に積極的に取り組む地域の寺社、企業、博物館、団体等の協力を得て高大連携教育プログラム「英語キャンプ (Camp Pax Mundi)」を実施することで、SDGs への理解を深めることができた。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	2022 年度より新たにオブザーバー参加された龍谷大学とユネスコスクール支援について意見交換を行った。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	地域をこえた国内外のステークホルダーに対してのユネスコスクールの認知活動については、実績がなかった。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	奈良育英中学校・高等学校と連携し、高大連携教育プログラム「英語キャンプ (Camp Pax Mundi)」を開発し、以下の学習を実施した。 ①京都市学校歴史博物館の見学や京都民際日本語学校の留学生とのオンライン交流などを行い、それぞれの母国の教育・学校・文化などについて学習した。 ②京北地域の里山や自然と調和した家具・住居について学び、美山にある“かやぶきの里”を訪問し、かやぶき屋根保存の取り組みや人々の暮らし、屋根の仕組みなどについて学習した。 ③アイマスクサッカー体験、知恩院、八坂神社界隈、京都国際マンガミュージアムでのフィールドワークを行い、公正とは何かについて学習した。 高校ホームページ
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	高大連携教育プログラム「英語キャンプ (Camp Pax Mundi)」は、SDGs についてオールイングリッシュで学習するプログラムであり、ユネスコスクールのグローバルな活動に向けた支援となっている。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	本学ホームページで大学間連携シンポジウム等について周知、広報した。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	教育課程におけるユネスコスクールに関わる教育は、現在のところ行っていない。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに	ASPUnivNet 加盟大学である玉川大学教育学部と本学外国語学部の学内共同研究「グローバルマインドを

	関連した調査研究を行うことができた。	育てる文化多様性/多文化共生教育の構築に向けて」を昨年度に引き続き推進することができた。 研究者総覧
	4. 自由記述	<p>①SDGs に関する大学間ゼミシンポジウム開催 2021 年 10 月に、京都外国語大学、玉川大学、釜山外国語大学校が共同して日本人学生と外国人学生と一緒に学ぶことができるオンライン大学間ゼミシンポジウム「アジア共同体の形成を目指してーアジア太平洋地域のグローバル市民教育を探る」を開催し、SDGs の目標達成に向けて大学間交流と協働による課題探求や解決への可能性を追究している。</p> <p>本学ホームページ</p> <p>②舞鶴市ユネスコ協会とのワークショップ開催 本学の学生 6 名と教員 1 名が舞鶴ユネスコ協会で「有形・無形の文化遺産を見極める」というテーマでアクティブラーニングのワークショップを準備・実施した。ワークショップでは、日本大学英語模擬国連 (JUEMUN)、ハルト賞 (HULT Prize)、右京 VOICES、コミュニティ・エンゲージメントなど、本学の様々なプロジェクトについて発表した。参加者は、舞鶴ユネスコ協会会員 30 名でプレゼンテーション前には舞鶴引揚記念館を訪問し、地域の有形・無形文化を次世代に向けて促進・保存するためのアイデアを話し合った。</p> <p>高校ホームページ</p>